



# **Data Warehouse**での作業の開始

## OnCommand Insight

NetApp  
October 24, 2024

# 目次

Data Warehouseでの作業の開始 .....	1
このタスクについて .....	1
Data Warehouseポータルにアクセスします .....	1
Data WarehouseおよびReportingのユーザアカウントの管理 .....	2
Data WarehouseとOnCommand Insight サーバの接続 .....	9
Data Warehouseデータベースの履歴からのビルドの概要 .....	11
Data Warehouseデータベースをバックアップしています .....	14
カスタムレポートおよびレポートアーティファクトのバックアップ .....	16
Data Warehouseデータベースをリストアしています .....	17
レポートにマルチテナンシーを設定しています .....	18
セットアップの問題のトラブルシューティング .....	20

# Data Warehouseでの作業の開始

OnCommand Insight Data Warehouseでは、データを含むレポートを生成する前に必要なオプションを設定できます。Data Warehouseには多くの機能が含まれていますが、使用する機能はごく一部です。Data Warehouseをセットアップするには、Data Warehouseポータルオプションを使用します。

## このタスクについて

OnCommand Insight Data Warehouseをセットアップするには、ストレージ管理者が次の手順を実行する必要があります。

- Data Warehouseポータルにアクセスします
- Data WarehouseとOnCommand Insight サーバの接続
- 履歴からデータベースをビルドしています
- バックアッププロセスとリストアプロセスをセットアップします

また、ストレージ管理者が次の手順を実行することもできます。

- コマンドラインインターフェイスを使用したMySQLへのアクセス
- 日次ビルドのスケジュール設定
- レポートにマルチテナンシーを設定しています
- セットアップの問題のトラブルシューティング
  - アノテーションが表示されないのはなぜですか？
  - 失敗した履歴ビルドポイントの処理

Data Warehouseポータルを初めて使用する場合は、[Jobs]ページに情報を表示する前にData Warehouseをセットアップしておく必要があります。Data Warehouseデータベースをリセットしたあとも、このセットアッププロセスを繰り返す必要があります。

## Data Warehouseポータルにアクセスします

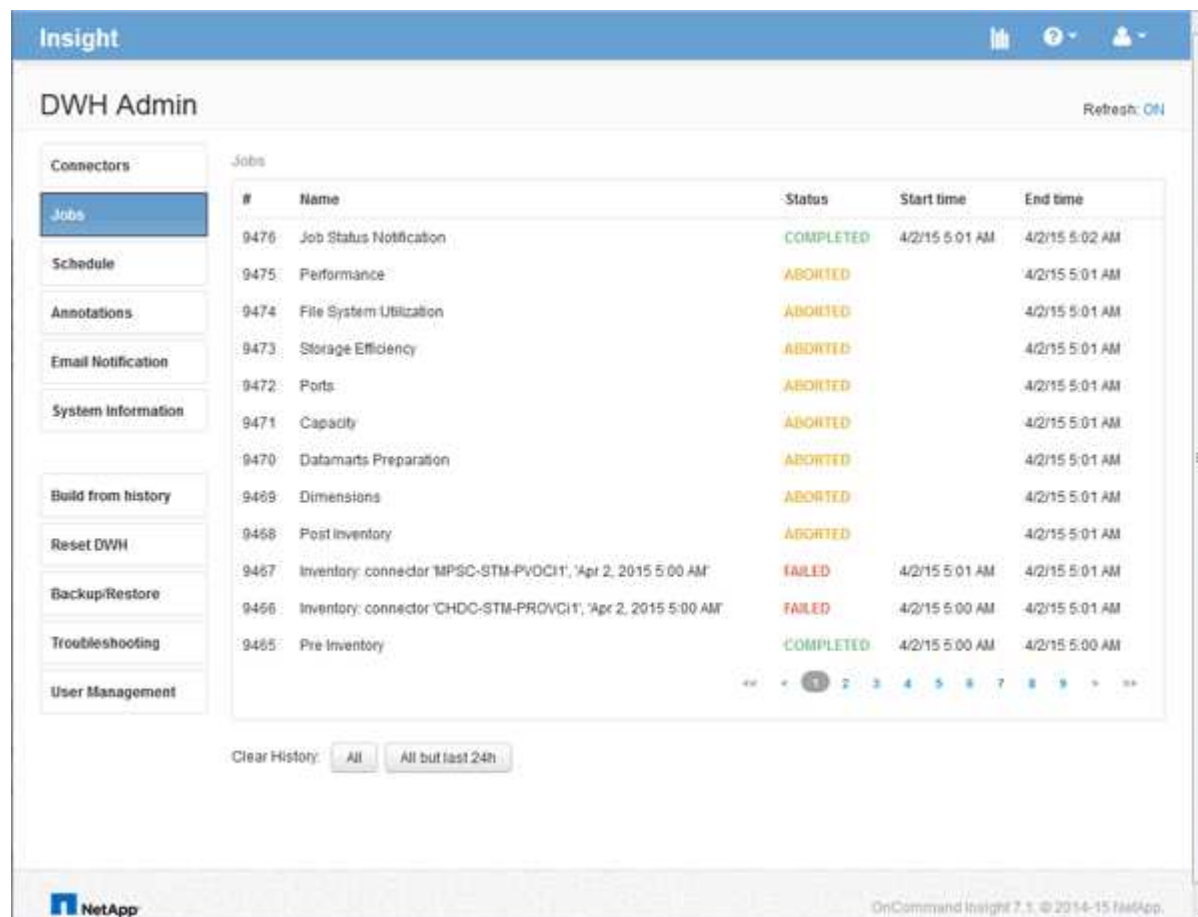
OnCommand Insight Data WarehouseポータルはWebベースのユーザインターフェイスで、コネクタ情報の更新、ジョブキューの表示、日次ビルドのスケジュール設定、アノテーションの選択、Eメール通知の設定、システム情報の表示、データベースのビルド、Data Warehouseのリセット、データベースのバックアップとリストア、問題のトラブルシューティングを実行できます。Data WarehouseポータルとReportingポータルのユーザアカウントを管理し、ドキュメントやスキーマ図にアクセスできます。

### 手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。

2. ユーザ名とパスワードを入力します。
3. [\* ログイン] をクリックします。

Data Warehouseポータルが開きます。



## Data WarehouseおよびReportingのユーザアカウントの管理

OnCommand Insight のレポート作成ツールのユーザアカウント、ユーザ認証、およびユーザ許可は、Data Warehouse (DWH) で定義および管理されます。ユーザと管理者は、これらの設定に基づいて、使用可能なOnCommand Insight レポートの一部またはすべてにアクセスできます。


Data Warehouseのユーザ管理にアクセスするには、システム管理者の権限を持つアカウントが必要です。これには、次のもの

- Data Warehouseのすべての管理機能
- すべてのユーザアカウントの設定とメンテナンス
- データベースへの読み取りアクセス権
- ETLでのコネクタのセットアップ、Data Warehouseジョブのスケジュール設定、データベースのリセット、ロールの割り当てと変更、ユーザアカウントの追加と削除を行う機能

## Data WarehouseポータルおよびReportingポータルへのアクセス

Data Warehouseポータルでは、管理オプションにアクセスできます。Data WarehouseポータルからReportingポータルにアクセスすることもできます。

### 手順

1. Data Warehouseポータルに管理者としてログインします `https://hostname/dwh`、ここで `hostname` は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. Data Warehouseツールバーで、をクリックします  をクリックしてReportingポータルを開きます。

## Reportingユーザのロール

各ユーザアカウントには、一連の権限を持つロールが割り当てられます。ユーザーの数は、各ロールに関連付けられているReportingライセンスの数によって制限されます。

各ロールで実行できる操作は次のとおりです。

### • 受信者

OnCommand Insight Reportingポータルのレポートを表示し、言語やタイムゾーンなどの個人設定を設定します。



受信者は、レポートの作成、レポートの実行、レポートのスケジュール設定、レポートのエクスポート、および管理タスクの実行を行うことはできません。

### • ビジネスコンシューマ

レポートを実行し、すべての受信者オプションを実行します。

### • ビジネス著者

Business Consumerのすべてのオプションに加えて、スケジュールされたレポートの表示、対話形式でのレポートの実行、ストーリーの作成が可能です。

### • \* Pro Author \*

Business Authorのすべてのオプションの実行に加えて、レポートの作成、パッケージおよびデータモジュールの作成を行います。

### • 管理者

レポート定義のインポートとエクスポート、レポートの設定、データソースの設定、レポートタスクのシャットダウンと再開など、レポート管理タスクを実行します。

次の表に、各ロールの権限と許可される最大ユーザ数を示します。

フィーチャー (Feature)	受信者	ビジネスパーソン	著作家	作者プロ	管理
------------------	-----	----------	-----	------	----

[チームコンテンツ] タブでレポートを表示します	はい。	はい。	はい。	はい。	はい。
レポートを実行する	いいえ	はい。	はい。	はい。	はい。
レポートのスケジュールを設定する	いいえ	はい。	はい。	はい。	はい。
外部ファイルをアップロードします	いいえ	いいえ	はい。	はい。	いいえ
ストーリーを作成します	いいえ	いいえ	はい。	はい。	いいえ
レポートを作成します	いいえ	いいえ	はい。	はい。	いいえ
パッケージとデータモジュールを作成します	いいえ	いいえ	いいえ	はい。	いいえ
管理タスクを実行	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい。
ユーザ数	OnCommand Insight ユーザの数	20	2.	1.	1.

Data WarehouseとReportingの新しいユーザを追加したときにロールの制限を超えたユーザが「非アクティブ化」として追加されます。新しいユーザにメンバーシップを付与するには、そのロールを持つ別のユーザを非アクティブ化するか削除する必要があります。



レポートオーサリング機能を使用するにはInsight Planのライセンスが必要です。Business AuthorユーザとPro Authorユーザを追加するには、ARAP (Additional Report Authoring Package) を購入します。詳細については、OnCommand Insight の担当者にお問い合わせください。

Reportingユーザのロールは、データベースへの直接アクセスには影響しません。Reportingユーザのロールは、データマートを使用してSQLクエリを作成する機能には影響しません。

## Reportingユーザを追加しています

Reportingポータルへのアクセスを必要とするユーザごとに新しいユーザアカウントを追

加する必要があります。ユーザごとに異なるユーザアカウントを設定することで、アクセス権、個々の設定、およびアカウントビリティを制御できます。

作業を開始する前に

Reportingユーザを追加する前に、一意のユーザ名を割り当て、使用するパスワードを決定し、正しいユーザロールを確認しておく必要があります。これらのロールはReportingポータルに特化されています。

手順

1. Data Warehouseポータルに管理者としてログインします `https://hostname/dwh`、ここで `hostname` は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*[ユーザ管理]\*をクリックします。
3. [ユーザー管理]ウィンドウで、\*[新しいユーザーの追加]\*をクリックします。
4. 新しいReportingユーザについて、次の情報を入力します。

◦ \* ユーザー名 \*

アカウントのユーザ名 (a-z, A-Z, 0~9を含む英数字)

◦ 電子メールアドレス

ユーザアカウントに関連付けられたEメールアドレス。ユーザがレポートをサブスクライブする場合に必要です

◦ \* パスワード \*

このユーザアカウントでOnCommand Insightにログインするためのパスワード。通常はユーザが選択し、インターフェイスで確認します

◦ \* Insightロール\*

適切な権限を持つユーザが使用できるロール



OnCommand Insight ロールのオプションは、OnCommand Insight がレポーティングファシリティと同じマシンにインストールされている場合にのみ表示されます。これは一般的ではありません。

◦ レポートロール

このユーザアカウントのReportingロール (Pro Authorなど)



Administratorロールは一意です。このロールは任意のユーザに追加できます。

5. [追加 (Add)] をクリックします。

ユーザアカウントの管理

Data Warehouseポータルで、ユーザアカウント、ユーザ認証、およびユーザ許可を設定

できます。各ユーザアカウントには、次のいずれかの権限レベルを持つロールが割り当てられます。ユーザーの数は、各ロールに関連付けられているReportingライセンスの数によって制限されます。

## 手順

1. Data Warehouseポータルにログインします `https://hostname/dwh`、ここで `hostname` は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*[ユーザ管理]\*をクリックします。

User Management

Name	OnCommand Insight roles			Reporting roles					E-mail				
	Guest	User	Administrator	Recipient	Business Consumer	Business Author	Pro Author	Administrator					
guest	X									Edit	Delete	Change password	Deactivate
user	X	X								Edit	Delete	Change password	Deactivate
admin	X	X	X				X	X		Edit		Change password	
oadmin	X	X	X							Edit		Change password	Deactivate

LDAP Configuration Add New User Change DWH User password

The following table shows the privileges for each reporting role:

Feature	Recipient	Business Consumer	Business Author	Pro Author	Administrator
View reports (in Public Folder tab, My Folders)	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Run reports	No	Yes	Yes	Yes	Yes
Schedule Reports	No	Yes	Yes	Yes	Yes
Create reports in Query Studio	No	No	Yes	Yes	No
Create reports in Workspace (Standard)	No	Yes	Yes	Yes	No
Create reports in Workspace (Advanced)	No	No	Yes	Yes	No
Create reports in Report Studio	No	No	No	Yes	No
Perform administrative tasks	No	No	No	No	Yes

3. 次のいずれかを実行します。
  - 既存のユーザーを編集するには、そのユーザーの行を選択して\*[編集]\*をクリックします。
  - ユーザーのパスワードを変更するには、ユーザーの行を選択し、\*パスワードの変更\*をクリックします。
  - ユーザを削除するには、ユーザの行を選択し、\*[削除]\*をクリックします
4. ユーザーを活動化または非活動化するには、ユーザーの行を選択して\*活動化\*または\*非活動化\*をクリックします。

## レポート用にLDAPを設定しています

Data Warehouseポータルでは、管理者がData WarehouseおよびReportingでのLDAPの使用方法を設定できます。

### 作業を開始する前に

このタスクを実行するには、管理者としてInsightにログインする必要があります。

すべてのSecure Active Directory (LDAPS) ユーザに対して、ADサーバ名は証明書で定義されているとおりに正確に使用する必要があります。セキュアADログインにIPアドレスを使用することはできません。





を使用して `_server.keystore_and/or_server.trustore_passwords` を変更した場合は "`securityadmin`"、SANSscreen 証明書をインポートする前に `_ldap_service` を再起動してください。

## 手順

1. Data Warehouseポータルにログインします `https://hostname/dwh`、ここで `hostname` は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*[ユーザ管理]\*をクリックします。
3. [LDAP設定]\*をクリックします。
4. [LDAPを有効にする]\*を選択して、LDAPユーザの認証と許可のプロセスを開始します。
5. LDAPの設定に必要な変更を行います。

ほとんどのフィールドにはデフォルト値が含まれています。デフォルト設定はActive Directoryに対して有効です。

### ◦ ユーザープリンシパル名属性

LDAPサーバ内の各ユーザを識別する属性。デフォルトはです `userPrincipalName` 世界的にユニークなものです OnCommand Insight は、この属性の内容を上記で指定したユーザ名と照合しようとしません。

### ◦ ロール属性

指定したグループ内でのユーザの適合性を識別するLDAP属性。デフォルトはです `memberOf`。

### ◦ メール属性

ユーザのEメールアドレスを識別するLDAP属性。デフォルトはです `mail`。これは、OnCommand Insight から利用可能なレポートをサブスクライブする場合に便利です。Insightでは、各ユーザが初めてログインしたときにユーザのEメールアドレスが取得され、それ以降は検索されません。



LDAPサーバでユーザのEメールアドレスが変更された場合は、Insightでそのアドレスを更新してください。

### ◦ 識別名属性

ユーザの識別名を識別するLDAP属性。デフォルトはです `distinguishedName`。

### ◦ 紹介

企業内に複数のドメインがある場合に、他のドメインへのパスをたどるかどうかを指定します。常にデフォルトを使用する必要があります `follow` 設定：

### ◦ タイムアウト

タイムアウトするまでにLDAPサーバからの応答を待機する時間（ミリ秒）。デフォルトは2,000です。これはすべてのケースで適切なため、変更しないでください。

- \* LDAPサーバ\*

LDAPサーバを識別するIPアドレスまたはDNS名です。特定のポートを識別するには、を参照してください ldap-server-address はLDAPサーバの名前です。次の形式を使用できます。

```
ldap://ldap-server-address:port
```

デフォルトのポートを使用するには、次の形式を使用します。

```
ldap://ldap-server-address
```



When entering multiple LDAP servers in this field, separate entries with a comma, and ensure that the correct port number is used in each entry.

+ LDAP証明書をインポートするには、\*[証明書のインポート]\*をクリックし、証明書ファイルを自動的にインポートするか、手動で検索します。

- ドメイン

OnCommand Insight がLDAPユーザの検索を開始するLDAPノード。通常、これは組織のトップレベルドメインです。例：

```
DC=<enterprise>,DC=com
```

- \* Insight Server adminsグループ\*

Insight Server管理者権限を持つユーザーのLDAPグループ。デフォルトはです insight.server.admins。

- \* Insight管理者グループ\*

Insight管理者の権限を持つユーザのLDAPグループ。デフォルトはです insight.admins。

- \* Insight Usersグループ\*

Insightユーザの権限を持つユーザのLDAPグループ。デフォルトはです insight.users。

- \* Insightゲストグループ\*

Insight Guest権限を持つユーザのLDAPグループ。デフォルトはです insight.guests。

- レポート管理者グループ

Insight Reportingの管理者権限を持つユーザのLDAPグループ。デフォルトはです

`insight.report.admins。`

- \* Reporting Pro Authorsグループ\*

Insight Reporting Pro Authorsの権限を持つユーザのLDAPグループ。デフォルトはです  
`insight.report.proauthors。`

- レポートビジネス作成者グループ

Insight ReportingのBusiness Authors権限を持つユーザのLDAPグループ。デフォルトはです  
`insight.report.business.authors。`

- ビジネス消費者グループの報告

Insight Reporting Business Consumers権限を持つユーザのLDAPグループ。デフォルトはです  
`insight.report.business.consumers。`

- レポート受信者グループ

Insight Reportingの受信者の権限を持つユーザのLDAPグループ。デフォルトはです  
`insight.report.recipients。`

6. 変更を加えた場合は、\* Directory lookup user および Directory lookup user password \*フィールドに値を入力します。

これらのフィールドに変更後の値を入力しないと、変更内容は保存されません。

7. [ディレクトリルックアップユーザパスワードの確認]フィールドにディレクトリルックアップユーザパスワードを再入力し、\*[パスワードの検証]\*をクリックしてサーバ上のパスワードを検証します。
8. をクリックして変更を保存します。変更を削除するには、[キャンセル]\*をクリックします。

## Data WarehouseとOnCommand Insight サーバの接続

コネクタは、OnCommand Insight データウェアハウスからOnCommand Insight サーバへの接続を確立します。Data Warehouseは1つ以上のOnCommand Insight サーバに接続できます。OnCommand Insight データベースへの接続またはデータベースからの接続を追加または削除できます。

### このタスクについて

Data Warehouseでは、コネクタ名とともに使用されるグローバル一意IDがコネクタに割り当てられます。コネクタの追加後、Data WarehouseはOnCommand Insight データベースにOnCommand Insight のサイト名とバージョンを照会します。

データソースへの接続にSSLを使用するかどうかを選択できます。セキュアなデータソースを選択すると、OnCommand Insight リモートデータベースとの通信時に接続にSSLが使用されます。

Data Warehouseでは、複数のOnCommand Insight 環境のデータをまとめて表示できます。この統合データベースは次の情報を提供します

- Globally Unique Identifierの略

各オブジェクトには、IDの競合を回避し、重複検出を可能にするために、個々のサイトで使用されるIDとは無関係なグローバル一意のIDが割り当てられます。これらのIDはすべてのデータマートで共有されます。このIDは、InventoryデータマートテーブルのComment列にあるGlobally Unique ID（GUID）です。

- 重複はありません

複数のOnCommand Insight データベースに存在するエンティティは、統合データベースに1回だけ登録されます

- 現在のレコード

統合データベース（Inventoryデータマート）のデータは常に最新です。

接続を追加または編集するときに、接続をテストすることもできます。このテストでは、次のことが行われます。

- ホストのIPアドレス、ユーザ名、およびパスワードを確認し、接続を確立できることを確認します。

無効な接続は赤で表示されます。

- OnCommand Insight のバージョンとData Warehouseのバージョンを比較します。

バージョンに互換性がない場合は、エラーメッセージが表示されます。

- 前回のData Warehouse処理で、OnCommand Insight データベースが別のデータベースに変更またはリストアされていないことが確認されます。変更があった場合は、エラーメッセージが表示されます。

## 手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*[コネクタ]\*をクリックします。

コネクタ(Connectors)テーブルは最初は空白で表示され、コネクタを追加するとコネクタ情報が表示されます

3. [新規（New）]\*をクリックして、新しいコネクタを追加します。
4. 次のように入力します。

- \* 暗号化 \*

SSL暗号化を使用してData Warehouse要求を実行できるようにするには、を選択します Enabled。

- \* 名前 \*

[コネクタ（Connectors）]ビューでコネクタを識別するコネクタ名。

- \* ホスト \*

ホストの IP アドレス

◦ \* ユーザー名 \*

"inventory"



このユーザ名とパスワードを使用して、リモートOnCommand Insight データベースにログインし、データに対してクエリを実行できます。

◦ \* パスワード \*

"SANSscreen "

5. ホストへのTCP接続に使用するポートを指定するには、\*[詳細設定]\*をクリックし、TCPポート番号を入力します。
6. ホストへのHTTPS接続に使用するポート（デフォルトポート以外）を指定するには、\*[詳細設定]\*をクリックし、ポート番号を入力します。
7. [\* テスト \*] をクリックします。

Data Warehouseで接続がテストされます。

8. [ 保存（ Save ） ] をクリックします。

複数のインストールに対して複数の接続を入力すると、Data Warehouseは、データの抽出元となるデータベースごとに1つずつ、独立したビルドプロセスを呼び出します。このような構築プロセスでは、OnCommand Insight データベースからデータが抽出され、統合データベースにロードされます。

## Data Warehouseデータベースの履歴からのビルドの概要

OnCommand Insight サーバの履歴データを使用してData Warehouseデータベースを構築できます。Data Warehouseでは、[build from history]のスケジュールに従って、OnCommand Insight サーバからデータが抽出され、Data Warehouseデータマートがビルドされます。

このオプションでは特別なライセンスは必要なく、インベントリデータがビルドに含まれます。ただし、容量情報を作成するには、OnCommand Insight PlanライセンスとOnCommand Insight Performライセンスが必要です。

履歴または現行のいずれかのビルドがすでに実行されている場合、最後のジョブより前の日付にビルドを実行することはできません。つまり、現在のビルドを実行した場合、履歴からビルドすることはできません。具体的には、2012年1月1日に終了した履歴からビルドを実行した場合、2011年にビルドを実行することはできません。

履歴ビルドに1日または2日の失敗したETLプロセスが含まれていない場合は、この数日間だけ履歴をビルドしないでください。履歴データはより長い期間のものであり、1日か2日でトレンドが大きく変わることはありません。履歴から再構築する場合は、履歴全体を再構築します。

[履歴からビルド]ビューには、すべてのコネクタからのすべてのビルドジョブが表示されます。たとえば、すべてのコネクタのインベントリジョブ、ビルド実行ごとのポート容量ジョブ、アノテーションジョブなどが表示されます。

[Build from History]を設定する前に、次の作業を実行する必要があります。

- コネクタを設定する必要があります。
- アノテーションはOnCommand Insight に入力する必要があり、古いOnCommand Insight ポータル の\*[Force Update of Annotations for DWH (DWHのアノテーションの強制更新) ]オプション\*を使用して 手動で更新できます。または、設定後15分で自動的に更新されます。

## Data Warehouseデータベースを履歴からビルドするジョブを追加する

Data Warehouseデータベースは、OnCommand Insight サーバに保持されている履歴データを使用して構築できます。これにより、予測レポートを実行できます。

作業を開始する前に

OnCommand Insight サーバでアノテーションを更新し、Data Warehouseのアノテーション情報を強制的に更新しておく必要があります。

手順

1. Data Warehouseポータルにログインします `https://hostname/dwh`、ここで `hostname` は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*[履歴からビルド]\*をクリックします。

Build From History

Target time	Start running	Status
3/13/15 12:00 AM	3/25/15 9:28 AM	COMPLETED
3/14/15 12:00 AM	3/25/15 9:34 AM	COMPLETED
3/15/15 12:00 AM	3/25/15 9:39 AM	COMPLETED
3/16/15 12:00 AM	3/25/15 9:45 AM	COMPLETED
3/17/15 12:00 AM	3/25/15 9:51 AM	COMPLETED
3/18/15 12:00 AM	3/25/15 9:57 AM	COMPLETED
3/19/15 12:00 AM	3/25/15 10:03 AM	COMPLETED
3/20/15 12:00 AM	3/25/15 10:09 AM	COMPLETED
3/21/15 12:00 AM	3/25/15 10:16 AM	COMPLETED
3/22/15 12:00 AM	3/25/15 10:23 AM	COMPLETED
3/23/15 12:00 AM	3/25/15 10:30 AM	COMPLETED
3/24/15 12:00 AM	3/25/15 10:38 AM	COMPLETED
3/25/15 12:00 AM	3/25/15 10:44 AM	COMPLETED

Navigation: << < 1 2 3 > >>

Buttons: Cancel Pending Jobs, Configure, Run

Skip history build failures: ☒

3. [Configure] をクリックします。

Configure Build From History

Start time:	11	February
	2015	...
End time:	02	April
	2015	...
Interval:	<input checked="" type="radio"/> Daily <input type="radio"/> Weekly <input type="radio"/> Monthly <input type="radio"/> Quarterly	
Hour:	12:00 AM	
<input type="button" value="Save"/> <input type="button" value="Reset"/> <input type="button" value="Cancel"/>		

#### 4. 開始時刻と終了時刻を入力します。

これらの日付を選択できるカレンダーを表示するには、月名の近くにある下向き矢印をクリックします。

時刻の形式は、Data Warehouseサーバのロケールによって異なります。

開始時刻と終了時刻は、Data Warehouseが接続されているすべてのOnCommand Insight サーバに格納されている履歴の範囲内である必要があります（Data Warehouseポータルの[Connectors]オプションで設定）。デフォルトの開始時刻と終了時刻は、最大有効期間を反映します。Data Warehouseのビルドジョブは、指定した時間に自動的に実行されます。



「4年間毎日」のように非現実的なスケジュールを設定すると、ビルドサイクルは1460回になり、完了までに10日かかる場合があります。

#### 5. 間隔を選択します。

毎月または毎週の間隔を選択すると、[日]フィールドが表示されます。[Monthly]を選択した場合は、[Day]が日付になります。[Weekly]を選択した場合、[Day]は日曜日から土曜日になります。

#### 6. ビルドを実行する時間を選択します。

#### 7. オプションをデフォルト設定に戻すには、\*[リセット]\*をクリックします。

#### 8. [保存（Save）]をクリックします。

#### 9. ページで、スケジュールによる自動ビルド以外でビルドを実行するには、[実行]\*をクリックします。

[Target Time]列には、このエントリが作成された時刻が表示されます。[ステータス]列には、ビルドが完了したか失敗したかが表示されます。

### 履歴からビルドジョブをキャンセルしています

計画されたすべてのジョブをキャンセルできます。ジョブのステータスが「中止」になります。

#### 手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname

は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。

2. 左側のナビゲーションペインで、\*[履歴からビルド]\*をクリックします。
3. [キャンセル（Cancel）]をクリックします。

## Data Warehouseデータベースをバックアップしています

Cognosのバックアップも含まれるData Warehouseデータベースをファイルにバックアップし、あとでData Warehouseポータルを使用してリストアできます。バックアップを作成すると、別のData Warehouseサーバに移行したり、新しいバージョンのData Warehouseにアップグレードしたりできます。

### 手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://fqdn/dwh>。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*[バックアップ/リストア]\*を選択します。
3. [バックアップ]\*をクリックし、バックアップ構成を選択します。

- a. Performance Datamartを除くすべてのDatamarts
- b. すべてのデータマート

この処理には30分以上かかることがあります。

+ Data Warehouseでバックアップファイルが作成され、その名前が表示されます。

4. バックアップファイルを右クリックし、目的の場所に保存します。

ファイル名は変更しなくてもかまいませんが、Data Warehouseのインストールパス以外の場所に保存してください。

Data Warehouseのバックアップファイルには、DWHインスタンスのMySQL、カスタムスキーマ（MySQL DB）とテーブル、LDAP設定、CognosをMySQLデータベースに接続するデータソース（Insight Serverをデータを取得するデバイスに接続するデータソースではない）が含まれています。レポートをインポートまたはエクスポートしたタスクのインポートとエクスポート、セキュリティロール、グループ、名前空間のレポート、ユーザーアカウント Reporting Portalの変更後のレポートとカスタムレポート（保存場所に関係なく、[My Folders]ディレクトリにも保存されます）。Cognosのシステム設定パラメータ（SMTPサーバ設定など）、およびCognosのカスタムメモリ設定はバックアップされません。

カスタムテーブルがバックアップされるデフォルトのスキーマには、次のものがあります。

dwh\_capacityの略

dwh\_capacity\_stagingの略

dwh\_dimensionsの略

dwh\_fs\_utilを参照してください



dwh_inventoryの略
dwh_inventory_stagingの略
dwh_inventory_transient
dwh_managementの略
dwh_performanceの略
dwh_performance_stagingの略
DWH_ポート
dwh_reportsの略
dwh_sa_stagingの略

カスタムテーブルをバックアップから除外するスキーマには、次のものがあります。

information_schema
取得
cloud_model
host_data
InnoDB
在庫
inventory_private
inventory_time
ログ
管理
MySQL

NAS
パフォーマンス
performance_schema
performance_viewsの略
SANscreen
スクラブ
サービス保証
テスト
tmp
ワークベンチ

手動で開始したバックアップでは、が使用されます .zip 次のファイルを含むファイルが作成されます。

- 日次バックアップ .zip ファイル（Cognosのレポート定義を含む）
- Aはバックアップを報告します .zip ファイル。[My Folders]ディレクトリにあるレポートも含め、Cognosのすべてのレポートが含まれます
- Data WarehouseデータベースのバックアップファイルCognosでは、手動バックアップ（いつでも実行可能）に加えて、日次バックアップ（毎日という名前のファイルに自動的に生成されます DailyBackup.zip）をクリックします。日次バックアップには、製品に同梱されている上位フォルダとパッケージが含まれます。[My Folders]ディレクトリおよび製品の上位フォルダ以外に作成したディレクトリは、Cognosのバックアップには含まれません。



Insightでのファイルの命名方法が原因です .zip ファイル。一部の解凍プログラムでは、ファイルを開くと空であることが表示されます。限り .zip ファイルのサイズが0より大きく、末尾がではありません .bad 拡張子、.zip ファイルは有効です。7-ZipやWinZip®などの別の解凍プログラムでファイルを開くことができます。

## カスタムレポートおよびレポートアーティファクトのバックアップ

7.0より前のバージョンのInsightで作成したカスタムレポートを最新バージョンにアップグレードする場合は、アップグレードインストールの前にレポートとレポートアーティファクトをバックアップし、アップグレードインストール後にリストアする必要があります。また、レポートアーティファクトの保存に使用するフォルダにも注意する必要があります。

あります。

## このタスクについて

事前定義済みのレポートに変更を加えた場合は、それらのレポートのコピーを別のフォルダに作成します。これにより、事前設計されたアーティファクトを更新しても、変更内容が上書きされることはありません。

[My Folders]領域にレポートがある場合は、レポートが失われないように[Custom Reports]フォルダにコピーする必要があります。

## Data Warehouseデータベースをリストアしています

Data Warehouseデータベースはを使用してリストアできます。zip Data Warehouseデータベースのバックアップ時に作成されたファイル。

## このタスクについて

Data Warehouseデータベースをリストアする場合は、ユーザアカウント情報もバックアップからリストアできます。ユーザ管理テーブルは、Data WarehouseのみのインストールでData Warehouseレポートエンジンで使用されます。

## 手順

1. Data Warehouseポータルにログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*[バックアップ/リストア]\*をクリックします。
3. セクションで、[参照]\*をクリックし、を探します。zip Data Warehouseのバックアップを含むファイル。
4. レポートまたはユーザアカウントデータをリストアする場合は、次のチェックボックスのいずれかまたは両方を選択します。

- データベースのリストア

Data Warehouseの設定、データマート、接続、およびユーザアカウント情報が含まれます。

- リストア・レポート

カスタムレポート、事前設計済みレポート、事前設計済みレポートに対する変更、Reporting Portalで作成したレポート設定が含まれます。



名前にスラッシュ (/) または開いたブラケット ([) を含むカスタムレポートがデータベースバックアップに含まれている場合（たとえば、US IT Center Switch Port Boston/July）、リストア処理によってレポートの名前が変更され、スラッシュまたは開いたブラケットがアンダースコアに置き換えられます（例：US IT Center Switch Port Boston\_July）。

5. [\* リストア] をクリックします。

リストアプロセスが完了すると、[Restore]ボタンの下にメッセージが表示されます。リストアプロセスが正常に完了すると、成功したことを示すメッセージが表示されます。リストアプロセスが失敗した場合

は、エラーの原因となった特定の例外がメッセージに表示されます。例外が発生してリストアッププロセスが失敗すると、元のデータベースは自動的にリセットされます。

## レポートにマルチテナンシーを設定しています

OnCommand Insight Data Warehouseでは、ユーザを1つ以上のビジネスエンティティに関連付けることで、Reportingでマルチテナンシー（「マルチテナンシー」または「マルチテナンシー」と略されることがあります）に対応します。この機能を使用すると、管理者は、ユーザー属性またはユーザーの所属に応じてデータまたはレポートを分離できます。

ビジネスエンティティでは、容量チャージバックの目的で次の値を使用して階層を使用します。

- テナント：主にサービスプロバイダがリソースをお客様（ネットアップなど）に関連付けるために使用します。
- 基幹業務（LOB）：企業内の基幹業務（「ハードウェア」や「ソフトウェア」など）。
- Business Unit：「Sales」や「Marketing」などの従来のビジネスユニット。
- Project：容量チャージバックを割り当てるプロジェクト。

マルチテナンシーを設定するプロセスの主な手順は次のとおりです。

- Data Warehouseユーザアカウントを設定
- Reporting Portalでグループを作成します。
- ユーザを1つ以上のグループ（ビジネスエンティティ）に割り当てます。
- ユーザを1つ以上のビジネスエンティティに割り当てます。たとえば、「NetApp」に関連付けられているユーザは、テナントとして「NetApp」を持つすべてのビジネスエンティティにアクセスできます。
- ユーザが表示する必要のあるレポートのみを表示できることをテストします。

次の点は、ユーザがレポートデータにアクセスする方法をまとめたものです。

- どのグループにも割り当てられていないユーザは、すべてのデータにアクセスできます。
- どのグループにも割り当てられているユーザは、ビジネスエンティティがないとレコードにアクセスできません。

たとえば、次の部門があり、これらの部門内のユーザに対してレポートを分離する必要があるとします。

ユーザ	エンジニアリング	サポート	財務	法律
ユーザ 1	X	X		
ユーザ 2			X	X
ユーザ 3		X		

## ユーザアカウントの設定

ユーザアカウントを設定するには、いくつかの手順を実行する必要があります。


### 手順

1. Data Warehouseポータルにログインします `https://hostname/dwh`、ここで `hostname` は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*[ユーザ管理]\*をクリックします。
3. 各ユーザアカウントを設定します。

## ビジネスエンティティへのユーザの割り当て

ビジネスエンティティにユーザを割り当てるには、一連の手順を実行する必要があります。Data Warehouseでは、ユーザを1つ以上のビジネスエンティティに関連付けることで、Reportingでマルチテナンシー（「マルチテナンシー」または「マルチテナンシー」）に対応できます。これにより、管理者は、ユーザの属性または所属に応じてデータまたはレポートを分離できます。

### 手順

1. Data Warehouseポータルに管理者としてログインします `https://hostname/dwh`、ここで `hostname` は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. Data Warehouseツールバーで、をクリックします  をクリックしてReporting Portalを開きます。
3. ユーザー名とパスワードを入力し、\* Login \*をクリックします。
4. [Launch]メニューから、\*[IBM Cognos Administration]\*を選択します。
5. [セキュリティ]タブをクリックします。
6. ディレクトリで、\* cognos \*を選択します。
7. Cognosフォルダに、ビジネスエンティティ用の新しいサブフォルダ「BEs」を作成します。
8. BEsフォルダを開きます。
9. [新しいグループ]\*アイコンをクリックして、さまざまな権限レベルに対応するグループを追加します。

権限レベルには、ビジネスエンティティのフルネーム（`netapp.N/A`など）またはプレフィックス（`netapp.N/A.Finance`など）を指定できます。どちらの形式でも、ビジネスエンティティ（`NetApp.N/A.Finance`）内のすべてのプロジェクトにアクセスできます。

[New Group]ウィザードが表示されます。

10. ウィザードの各ページに情報を入力します。
11. ビジネスエンティティを選択し、\*[詳細]\*をクリックします。
12. [メンバーの設定]\*をクリックします。
13. [追加（Add）]をクリックします。
14. SANscreen ディレクトリを選択します。

15. ユーザのリストから、ビジネスエンティティに含める各ユーザを選択し、[Selected Entries]ボックスに追加します。
16. [OK] をクリックします。
17. 同じ手順を繰り返して、各ビジネスエンティティグループにメンバーを追加します。

## セットアップの問題のトラブルシューティング

アノテーション、ビルド、レポートには、セットアップ時に発生する可能性のある一般的な問題がいくつかあります。これらの問題をトラブルシューティングするには、概説されている手順に従います。

### アノテーションが表示されない理由

Data Warehouseでアノテーションが表示されない場合は、アノテーションを強制的に更新してからData Warehouseのビルドを開始する必要があります。

アノテーションが欠落していると、Data Warehouseへのデータのインポート方法とレポートへのデータの表示方法に影響します。たとえば、アノテーション「階層」を使用できない場合、Data Warehouseのレポートでストレージシステムを階層別にグループ化することはできません。

### Data Warehouseのアノテーションを強制的に更新します

OnCommand Insight からData Warehouseへのアノテーションの更新を開始できます。

このタスクについて

アノテーションは、次の2つのオプションのいずれかを使用して更新できます。

- 削除されたオブジェクトを含める：削除されたホスト、ストレージレイ、スイッチなど、すでに存在しなくなったデバイスに関するデータが含まれます。これは、履歴データポイントを使用してData Warehouseデータをビルドする場合に必要です。
- 削除されたオブジェクトを含めない：削除されたオブジェクトを除外する場合は、このオプションを選択します。

### 手順

1. OnCommand Insight ポータルに管理者としてログインします <https://hostname>、ここで hostname は、OnCommand Insight がインストールされているシステムの名前です。
2. >[トラブルシューティング]をクリックします。ページの下部にある[高度なトラブルシューティング]\*をクリックします。
3. タブで、[DWHアノテーションの更新（削除を含む）]\*をクリックします。

### Data Warehouseの手動ビルドを生成します

OnCommand Insight でアノテーションを強制的に更新（一時データを実行）したら、Data Warehouseのビルドを開始する必要があります。スケジュールされた次回のビルドまで待つか、今すぐビルドを開始できます。

## 手順

1. Data Warehouseポータルに管理者としてログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*[スケジュール]\*をクリックします。
3. [今すぐビルド]\*をクリックします。

## Data Warehouseへのユーザ定義アノテーションのインポート

OnCommand Insight で強制的にアノテーションを更新したら、Data Warehouseで必要なアノテーションを選択し、Data Warehouseのビルドを開始する必要があります。スケジュールされた次のビルドまで待つか、今すぐビルドを開始できます。

## 手順

1. Data Warehouseポータルに管理者としてログインします <https://hostname/dwh>、ここで hostname は、OnCommand Insight Data Warehouseがインストールされているシステムの名前です。
2. 左側のナビゲーションペインで、\*注釈\*をクリックします。

Annotations

Annotation	Column Name	Target Object	Published
Compute_Resource_Group	Compute_Resource_Group	Virtual Machine	
Data_Center	dataCenter	Host	✓
Data_Center	dataCenter	Storage	✓
Data_Center	dataCenter	Switch	✓
Note	Note	Switch	
Switch_Level	switchLevel	Switch	✓
Tier	Tier	Internal Volume	
Tier	Tier	Qtree	
Tier	Tier	Storage	
Tier	Tier	Storage Pool	
Tier	Tier	Volume	

Edit

リストには、アノテーションタイプごとに行が表示され、アノテーションを割り当てることができるターゲットオブジェクトが1つずつ表示されます。[Published]列のチェックマークは、アノテーションが特定のターゲットオブジェクトに対してすでに選択されており、Data Warehouseデータマートですでに使用できることを示しています。

3. OnCommand Insight からアノテーションをインポートする方法を編集するには、\*編集\*をクリックします。

Annotation	Column Name	Target Object	Published All / None	Init With Current All / None
Compute_Resource_Group	Compute_Resource_Group	Virtual Machine	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Data_Center	dataCenter	Host	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Data_Center	dataCenter	Storage	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Data_Center	dataCenter	Switch	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Note	Note	Switch	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Switch_Level	switchLevel	Switch	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Tier	Tier	Internal Volume	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Tier	Tier	Qtree	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Tier	Tier	Storage	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Tier	Tier	Storage Pool	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Tier	Tier	Volume	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

Save Cancel

#### 4. アノテーションプロセスを編集するには、次の手順を実行します。

- OnCommand Insight から取得したアノテーションをData Warehouseデータベースに追加するには、\* Published \*を選択します。すべてのオブジェクトのすべての注釈を選択するには、\*すべて\*をクリックします。[なし]\*をクリックして、すべてのオプションが選択されていないことを確認します。



特定のオブジェクトのインベントリテーブルおよび関連するデータマートからアノテーション列を削除する場合は、このオプションをオフにします。カスタム設計のレポートでアノテーションデータが使用されている場合、そのレポートは正常に実行されません。

- Data Warehouseディメンションテーブルの履歴データを現在のアノテーション値で初期化する場合は、\* Init with Current をオンにします。すべてのオブジェクトのすべての注釈を選択するには、\*すべて\*をクリックします。[なし]\*をクリックして、すべてのオプションが選択されていないことを確認します。このチェックボックスは、注釈がパブリッシュされると無効になります。このチェックボックスは、パブリッシュされていない注釈に対して有効になります。たとえば、アノテーションタイプ「**floor**」でアノテートされ、値「**1**」を取得したホストが**host\_dimension**テーブルに**3**行ある場合、Init with current を選択すると、**host\_dimension**テーブルの**3**行すべてに対して「**floor**」列の値「**1**」が関連付けられます。「\*現在の値で初期化」が選択されていない場合、そのホストの最新の行だけが「floor」列に「1」と表示されます。

#### 5. [ 保存 ( Save ) ] をクリックします。

アノテーションを削除すると、原因 によってデータ構造が変更されたりデータが失われたりすることを示す警告メッセージが表示されます。

#### 6. 続行するには、\*[はい]\*をクリックします。

Data Warehouseで非同期アノテーションジョブが開始され、要求された変更が適用されます。ジョブは[Jobs]ページで確認できます。Data Warehouseデータベーススキーマの変更内容を確認することもできます。



## 失敗した履歴ビルドポイントの処理

[Skip history build failures]オプションを有効にすると、失敗したビルドをすべて省略して履歴からビルドできます。

これを行うと、履歴からのビルドが続行されます。このオプションを有効にすると、ビルドが失敗した場合、Data Warehouseではビルドが続行され、失敗したビルドは無視されます。この場合、スキップされたビルドのデータポイントは履歴データにありません。このオプションを有効にしない場合にビルドが失敗すると、以降のジョブはすべて中止されます。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。